

臨床実習開始前の「共用試験」

第13版（平成27年）補遺

医学系共用試験 CBT における2連問の単問化について

平成28年3月

公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）

平成 27 年 11 月 25 日付けで発行した

「臨床実習開始前の「共用試験」 第 13 版（平成 27 年）」

の 16 ページ ② 問題の形式 第 2 項「多選択肢 2 連問形式の設問」の*においてお知らせしたように、これまでブロック 5 で出題されていた多選択肢 2 連問は 2016 年 8 月第 3 月曜日以降に実施される「新 2016 年度共用試験」から、多選択肢択一方式の単問形式に変更されます。

また、この単問形式への変更に伴い、従来ブロック 5 の設問画面に示されていた「テーマ」は、表示されなくなることを申し添えます。

なお、ブロック 5 の設問数は、従来どおり 40 設問、制限時間は 1 時間で変わりません。

受験生の皆様には、上記の変更に伴い、臨床実習開始前の「共用試験」 第 13 版（平成 27 年）の 31 ページの例題 13-1、13-2、および 32 ページの例題 14-1、14-2 については、この補遺にある公開問題に差し替えてご覧になり、問題の形式に習熟しておくことをお勧めします。

会員各大学におかれましては、この変更について受験対象学生への周知徹底を図るようお願いいたします。

平成 28 年 3 月 29 日

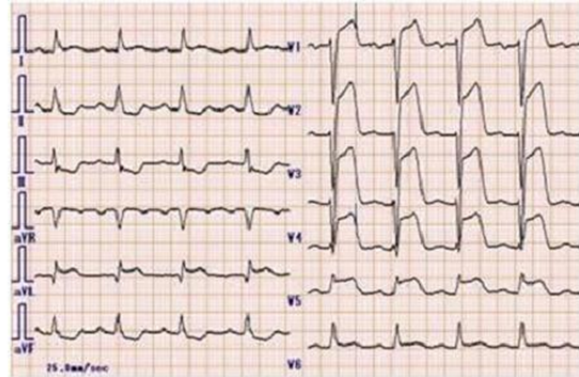
公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）

例題 1 多選択肢択一形式（症候）

56歳の男性。就寝後に前胸部圧迫感が出現して冷汗と悪心を伴い改善しないため、症状出現から2時間後に搬入された。高血圧症、糖尿病および脂質異常症で加療中である。意識は清明。身長 168cm、体重 86kg。脈拍 88/分、整。血圧 148/98mmHg(右上腕)、146/94mmHg(左上腕)。呼吸数 14/分。経皮的動脈酸素飽和度(SpO₂)(自発呼吸、room air) 98%(基準97~100)。頸静脈の怒張はない。心尖部でⅢ音を聴取する。呼吸音に異常はない。腹部は平坦、軟で、肝と脾を触知しない。血液学所見：白血球 12,200。血液生化学所見：随時血糖 120mg/dL、AST 46 IU/L、ALT 36 IU/L、LD 300 IU/L(基準176~353)、CK 190 IU/L(基準25~150)。心筋トロポニンT 陽性。12誘導心電図(カラー表示)を示す。

考えられるのはどれか。

- A. 異型狭心症
- B. 急性心筋梗塞
- C. 急性心膜炎
- D. 急性大動脈解離
- E. 緊張性気胸
- F. 食道破裂
- G. 大動脈弁狭窄症
- H. 肺血栓塞栓症
- I. 労作性狭心症



例題 2 多選択肢択一形式（症候）

19歳の男性。腹痛を主訴に来院した。昨夜夕食後から悪心と心窩部の鈍痛を感じていた。今朝になって右下腹部に鋭い痛みを感じるようになった。歩いたり咳をしたりすると痛みは響くように増強する。昨晚の夕食に生ものは食べなかった。今朝はまだ排便がない。身長 170cm、体重 60kg。体温 37.4°C。脈拍 92/分、整。血圧 110/60mmHg。腹部は平坦。右下腹部に圧痛を認め、反跳痛がある。腸蠕動音は減弱している。尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)。血液学所見：赤血球 510万、白血球 12,000、血小板 18万。血液生化学所見：総ビリルビン 1.0mg/dL、AST 12 IU/L、ALT 15 IU/L、アミラーゼ 74 IU/L(基準37~160)。CRP 4.8mg/dL。

考えられるのはどれか。

- A. Crohn(クローン)病
- B. アニサキス症
- C. 胃潰瘍
- D. イレウス
- E. 潰瘍性大腸炎
- F. 急性脾炎
- G. 急性胆管炎
- H. 急性虫垂炎
- I. 虚血性大腸炎
- J. 尿路結石

正答 例題 1 : B 例題 2 : H

例題 3 多選択肢択一形式（病態）

このメッセンジャーの受容体は細胞の核内に存在し、特定の遺伝子の発現を調節する。このメッセンジャーには成長に対する作用、糖質代謝と脂質代謝に対する作用、および自律神経と心血管系に対する作用など多彩な作用がみられる。

このメッセンジャーはどれか。

- A. アドレナリン
- B. インスリン
- C. オキシトシン
- D. ガストリン
- E. 上皮増殖因子(EGF)
- F. トリヨードサイロニン(T₃)
- G. ヒスタミン
- H. プロゲステロン
- I. プロスタグランジン

例題 4 多選択肢択一形式（病態）

16時間の新生児。生後8時間から黄疸がみられ増強してきたため近くの産院から搬送された。在胎40週、出生時体重 3,100g。体温 37.4℃。呼吸数 40/分。脈拍 130/分。Apgar(アプガー)スコア(1分) 8点。皮膚の黄染が強く、四肢の動きはやや緩慢である。大泉門は平坦である。腹部は軽度膨満し、肝と脾を肋骨弓下に2cm触知する。血液学所見：赤血球 350万、Hb 11.0g/dL、白血球 12,000、血小板 21万。血液型は父親と姉(2歳)がA型、Rh(+)、母親がA型、Rh(-)である。

検査所見として考えられるのはどれか。

- A. ①
- B. ②
- C. ③
- D. ④
- E. ⑤
- F. ⑥
- G. ⑦
- H. ⑧

血清ビリルビンの増加	直接Coombs試験	尿中ヘモグロビン	
直接優位	陽性	陽性	①
		陰性	②
	陰性	陽性	③
		陰性	④
間接優位	陽性	陽性	⑤
		陰性	⑥
	陰性	陽性	⑦
		陰性	⑧

正答 例題 3 : F 例題 4 : F